

- ・2018年3月までに原稿を集める
- ・大学でのビジネス倫理教育のテキスト 20万字（12,000×15本＝180,000）
- ・初学者にも分かりやすく、同時に専門性にも配慮し、本部会のオリジナルの作品を世に問う。

はじめに CSRの背後にあるもの 宇佐神・村山

第一部 サラリーマンのライフストーリー

K銀行 佐藤
M物産、大学教員として 古山

第二部 倫理学の視点

西洋倫理学の日本の理解—和辻と金子の倫理学 宇佐神
「カントの倫理学？」 新川

第三部 教育学、福祉学の視点

「国民統合と教育勅語？」 緒川
「ケアの思想史？」 望月

第四部 伝統思想からの学び

懐徳堂と石田梅岩 辻井
陽明学 山本
Or 近江商人から滋賀CSRモデルまで 村山
水戸の思想—小学生に伝える「道徳」教育 但野正弘（水戸史学会事務局長）△

第五部 道徳教育、経営教育、企業家史

「山口高商、小樽高商の経営倫理教育？」 井上
モラルリーダーシップ—「企業家殿堂」の選定を巡って 村山
高校の「道徳」教育—茨城県の事例 大内一幸（元水戸商校長）△

第六部 実践編

スピリットトレーニング—「日本経営道協会」 市川・村山 6000
サービスラーニング—南部塾のケーススタディ 村山 6000

第七部 未来の経営倫理

21世紀と日本 宇佐神

あとがき 宇佐神・村山